

学校関係者評価報告書 令和5年度

項目	評価項目	評価結果・課題	課題・改善方策
(1)教育理念 ・目標	・創学の精神「自立」と「清く・正しく・美しく」の教育理念は実行されているか	自立の精神を育てる一環として、今年度のファッションショーでは、校舎6階ホールを使用し、開催した。学生が中心となってステージの配置などを考え、音響等も在校生が操作を担当したことは、創学の精神である自立がなされたものと評価する。	学校行事等で学生主体ではない部分もあるため、学生の自主的な企画力を育て、学生組織主体での企画にシフトしていくことによって、創学の精神の実現を目指す。
	・職業とキャリアを重視した教育がなされているか	自分の思い描くキャリアのために必要な資格の見直しのため、新たな検定を導入し、合格者を輩出できたことは日常的に職業意識を持たせるために有用だったと判断する。ただし卒業までに就職が決まらなかった学生がいたことは、大きな課題として捉えるべきである。	資格を取得するだけで満足せず、キャリア計画にどのように役立てられるかを考える機会を取り入れる必要がある。次年度ではキャリア教育の分野で、教養学を強化し、自分の考えを言語化し、他者に伝える能力を強化実践する授業を取り入れていく。
	・専修学校が社会に於ける役割を認識しニーズに応える学校づくりに努めているか	103周年記念式典を行い、当校の歴史から専修学校が周辺地域社会とどのように関わってきたのかを振り返り、感謝を伝える事が出来たことは、ニーズに応じる学校づくりが行っていたと評価する。	今後も地域社会との関係を良好にしていく為に、周辺地域からの要請に応じて、地域に開かれた学校として、一般講座などを行っていく。
	・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	103周年記念式典にて、当校の理念や特色にかかる動画を上映、更にそれをインターネットにて配信し、学生・保護者へ周知活動をすすめた。	今後も引き続き、動画はインターネットで配信し周知を進め、その他学校開放日などを活用し、育人人材像や将来構想などを保護者に向けて周知する機会を増やす。
	・専門教科に重点を置き、併せて一般教科・特別教育活動をして専門業界の即戦力となる人材の育成に努めているか	専門業界の即戦力となる人材の育成については、インターンシップ先の新規開拓などが大きく寄与したと評価する。ただしそれ以外の面では例年の内容を踏襲している部分もあり、更なる上進を目指す必要がある。	重点を置くべき専門教科を教職員で再度見直し、適宜外部講師を招聘するなど、即戦力となる人材育成に不可欠な知識・技術の導入を図っていく。
	(2)学校運営	・校務分掌役割の確認と責任の遂行はなされているか	校務分掌については役割の確認と責任の所在についての整備を進められている。カテゴリの細分化、役割を明確にする事で業務の効率化を図る事が出来た。
・事業計画を綿密に立て、共通理解で運営されているか		事業計画について今年度は103周年記念式典等があり、それらに向けて全職員で取り組んだが、全職員間での共通認識、共通理解をあまり徹底する事が出来なかった点もあったことから、情報のスムーズな伝達を行うための意識づけ、仕組みが必要である。昨年度挙げられている窓口となる教職員の策定が急務である。	事業計画会議で、こういった目標をもった事業で、計画の意図をきちんと共通認識として理解しているかを明確にするのみならず、窓口となる教職員を早急に策定する。そして綿密に情報を整理した後、会議不参加の職員への情報伝達を徹底していく。
・運営組織や意思決定機能は職		学校全体が関わる外部事業等がある際は、常々会議で諮ら	上層部内での意見の相違があった場合に、職員間での意思決

	員会議等で諮られて納得して十分機能しているか	れており、職員からの意見の吸い上げ等も行われ、意思決定が行われた。	定がぶれない様に、常に意見の統一を図っていく事で、組織運営の停滞を防いでいきたい。
	・人事、給与に関する規程等は整備されているか	就業規則等の文書の電子化を進め、共有フォルダ等で管理・閲覧ができるよう整備している途中である。時短勤務職員の取扱についての規定で不十分である点が見つかった為、明確化し整備が必要である。	引き続き文書の電子化を行うとともに、時短勤務職員の勤務時間や時間外手当該当事例の明確化を整備していく。
	・業界や地域社会と密接な信頼関係が確立されているか	今年度は昨年度協力してくれた企業その他、新しくインターンシップの協力をして頂ける地元企業を増やすことが出来、業界との繋がりを増やし着実に信頼関係を築けてきている。	次年度は同一地域にある専門学校との合同事業の企画を進めており、同じ次世代を育てる教育現場との横の連携を強化し、更に地域社会との密接な交流を目指していく。
	・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	昨年度に引き続き SNS での情報公開を率先して行っている。その為、在学生以外にも SNS を通じて保護者や学外の人に向けても教育活動や学校に関しての情報を公開する事が出来ている。	教育活動の情報公開の一環として、インターネットでオンライン型のオープンキャンパスの充実を図っていきたい。
(3)教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育課程編成委員会の協力もあり、カリキュラムの内容を吟味し、時代に合った内容を策定していく事が出来、新しく資格取得に対する指導体制を整えられた。	新しく導入した資格取得に対する指導体制は一定の成果を出したので、今後も引き続き継続し内容を更に充実させる事で更なる教育課程の強化を目指していきたい。
	・業界のニーズに十分応えるレベルに到達する教育と時間の配分が明確にされているか	カリキュラムスケジュールはそれぞれ明確に開示されており、目標としての到達レベルを学生それぞれに課して年間を通して達成出来る様に取り組んでいる。	一部、時間内に到達レベルに達しない学生がいるので、そういった学生に向けてスケジュールリングの指導等を行っていく。その他にも、業界のニーズ、求める人物像は変遷していくので、逐一情報収集をしていくようにする。
	・学科等のカリキュラムは体系的に編成されキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	実習を中心とした技術面の教育を充実させ、即戦力となれる職業教育のカリキュラムを基礎とし、キャリア教育の視点から、学生一人一人の教養を高める為 PC 操作やグループワークでコミュニケーション能力を養う授業が実施された。	新たな取り組みとして新たに工夫を凝らした面もあったため、それらを更に深掘りし、体系的に取り入れていく。上級学年に進めるプロフェッショナル科では、より実践的なキャリア教育を開発し取り入れていきたい。
	・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	教育課程編成委員会を執り行い、直に意見を取り交わし、業界からの率直な意見から、カリキュラムの制作・見直しを行っている。	企業側から貰う意見の中には、コミュニケーション能力の強化を求める意見が多いので、次年度は学生を主体としたグループワークでの衣装製作をカリキュラムに取り入れていきたい。
	・関連分野における実践的な職業教育（産学連携事業）は体系的に位置づけられているか	産学連携事業として、今年度も引き続き家庭科教員研修を開催し、周辺地域の小学校、中学校の家庭科教員に対し、専門教職員が縫製の基礎技術のノウハウを指導した。今後また企業との連携をしていく必要がある。	次年度は、民間企業を対象とした職業教育を行えるよう、関連企業との関係性の強化や、還元できる技術の精査、研究を進めていく。
	・職業教育に対する外部関係者	教育課程編成委員会で意見交換を行う他、アンケートも取	次年度もまた幅広い意見を募り、客観的な意見として位置付

	からの評価を取り入れているか	り、その中の評価や意見を取り入れている。	けて取り入れていく。
	・授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	学則に基づき、それらの基準は明確に定められている。またいずれもシラバスによって明示され、その通りに行われている。	現在定められている内容が、現代に合った内容になっているか定期的な見直しを行っていく。また、シラバスやカリキュラムはホームページにて公開され、学生も確認できるように整えられているため、学生がより活用できるよう整備する。
	・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	指導体制として、対策授業の強化を体系化している。今年度から更に新しく取得を目指す検定を増やし、それに伴い検定の対策授業を強化し、オンラインでの受験対策も行った。	指導体制の強化の結果、検定の合格者が増えたため、次年度も同様の体制を元に、カリキュラム内容の強化を図っていく。
	・人材育成目標達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	策定されたカリキュラムに沿った教員は確保できているが、より実務的な経験のある教員や講師からの授業を行えるよう努力する。	次年度は必要なスキルを備えた教員、講師の募集を行い、適宜配置し、目標とする人材育成教育を充実させていく。
	・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	先端知識・技術を習得する研修に関しては該当分野の教員を中心に、伝統工芸に関する講演会や染色技術の体験研修等を行った。CADの導入に関しては難航したため、来年度も課題として努力する必要がある。	先端的知識や技能等の習得の為の研修に関して、今後は教職員それぞれが授業に活用できる研修を挙げ、検討を行っていく。またCADに関して来年度もまた導入を目指して努力する。
(4)学修成果	・就職率の向上が図られているか	就職率に関しては前年度に比較して向上しなかった。その反省を踏まえ、就職活動の促し方の再考が必要と思われる。	就職を希望する学生に対し、求人票の情報を紙だけでなく、ネット上でいつでも閲覧出来るよう資料を開示する。また、そういったツールを活用する事で自主的に就職活動を促し、行動の早期化を図っていきたい。
	・資格取得率の向上が図られているか	資格取得の為の対策授業の強化を図った結果、昨年度より資格取得率は向上した。	この資格取得率を維持しつつ、更に上位の資格取得への挑戦を促していきたい。
	・退学率の低減が図られているか	担任教員や生活指導教員などによる個人面談が適宜行われたものの、退学率の低減は難航した。退学理由としては入学後、やりたいこととのギャップの発生、モチベーションの維持が難しいなど、学校や家庭のみならず外部と連携しての指導も必要になる部分が多かった。入学前の段階でより詳しい授業内容のガイダンスを行ったため、今後の動きを注視する必要がある。	学生本人の修学へのモチベーションを維持させる事を第一としつつ、本人の悩みや課題点を聞き、共に解決にあたる事が出来るよう努めていく。また、学生本人や家庭からの希望があった場合、外部機関とも連携をとるなど、適切な処置を行う。
	・卒業生・在校生の社会的な活躍や卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	学園祭や卒業ファッションショー等で来校した卒業生から情報収集を行い、その情報を卒業後の活躍、キャリア形成の一例として教育活動へ活かしている。卒業生がいる企業への見学などは、昨年度から企図しているが実現していないため、来年度の課題である。	卒業生から得た情報で、在学中にやっておけば良かった事でグループワーク等のコミュニケーション能力を養う事が上げられたため、次年度は社会的な活躍を視野にコミュニケーション能力の向上を目標としていく。卒業生がいる企業への見学などは、実現に向けての努力を図る。

(5) 学生支援	・進路・就職に関する指導・支援は行われているか	進路担当教員を定め、気軽に相談できる体制を整えた。しかし担当教員の認知度が学生の中でやや低く、気軽に相談できる雰囲気づくりには寄与できなかった。	就職に関してはネット上で求人票を閲覧できるようにする為のツールの整備を進めている。同時に、進路指導担当教員の認知度を上げていく。
	・学生相談に関する体制は整備されているか	担任教員の他、進路指導教員、奨学金担当教員等を別に配置し、選択肢を増やす事で相談しやすい体制を整えた。	現状に加え、入りやすい職員室の雰囲気づくりをし、相談しやすい環境づくりにも努めていく。
	・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	高等教育無償化や奨学金について担当教員を中心に希望者への説明や手続きの指導を行った。更に、学校 HP により詳しく情報を載せる事で、経済的な支援体制が学生に分かりやすく周知できている。	現状の維持で問題ないと判断できるが、今後、法整備などで制度が変わっていく事も予想されるため、常に制度について理解を深めることが必要不可欠である。
	・課外活動に対する支援体制は整備されているか	課外活動として企業見学に行く場合や、オンライン説明会等で授業を休む際は公欠として扱い、出席日数への不安や負担を低減している。インターンシップでは、今年度から新たな協力企業が増え、更に整備が進んだ。	今後も就職活動等率先して動く学生への支援は続けていく。そして、今年度初めて本校学生を受け入れてくれた企業と、次年度以降もインターンシップ開催協力を得られるよう、更に関係を深めていく。
	・保護者会と適切に連携しているか	今年度は、前年度からの引き継ぎや高等課程からの持ち上がりで保護者会を引き受けてくれる保護者が多く、適切な連携が出来ている。だが、マチコミ等の SNS の活用に関しては、十分に活用できていない機能もあることが課題である。	次年度以降、慣れない保護者が増える事を考え、電話や書面の他、マチコミ等 SNS を活用し連絡の取りやすいツールで相互にやり取りをする事で、連携強化を図っていく。具体的には教職員で情報を精査し、マチコミなどで保護者が求める情報を随時配信する。
	・卒業生へのニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	卒業生から、学生時代に経験しておきたかった体験や技能などを聞き取ったのに加え、企業からはコミュニケーション能力の向上といったニーズの要求があった。カリキュラムに反映するための準備を行ったが、教育環境として今年度は整備しきれなかった。	次年度は、教養学としてコミュニケーション能力を養う授業の他、企業が求める人物像の分析強化をカリキュラムに盛り込んでいくことで、ニーズに応えられるよう企図する。
	・中学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	今年度は中学生向けの職業体験学習が昨年度に比較して減少した。コロナウイルスの流行が収まったため、企業などが職業体験の受入れを行ったのが要因だと考えられる。今後は各学校への働きかけとともに、職業体験イベントの参加などを検討する必要がある。	今後も職業教育の関心を広めていくべく、各学校に働きかけるのと同時に、イベント参加など門戸を広げていく。また、高校が職業教育のために企画する模擬授業なども広く行われているため、内容を充実させ、キャリア教育の向上に寄与していく。
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	設備に関してはきちんと整備されており、校内の設備機材の扱い方について共有はなされたが、それらの機能を最大限活用しきれなかった。	今後は座学の授業や講演などで更に機能を活用出来るよう、設備機器のハード面だけでなく、それらを活用した授業内容といったソフト面の充実を強化していく。
	・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	昨年度は積極的に実習や研修が行われなかったという評価だったが、今年度はファッションクリエイトコースのインターンシップ先として新たに企業と協定を結んだ。例年のインターンシップ先とは違う機材等に触れることで、教	より積極的に実習や研修に参加できるように、学生に促すとともに、学校としても新たなインターンシップ先の協力企業を開拓していく。

		育体制の充実を叶えられたと評価する。	
	・防災に対する体制は整備されているか	学生職員含めた避難訓練の他、職員を中心に非常口の鍵の外し方等の情報共有を行う事で体制の整備を進めた。	より具体的な事案として、教員がいない時の避難の仕方等、今まで行っていた防災対策から一步踏み込んだ防災訓練を行いたい。
(7) 学生の受入れ募集	・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が積極的に行われているか	ホームページやSNSなど、種々のツールを活用して新しい情報を発信したことは評価したい。高等学校等に対し、オープンキャンパス等の学校関連行事の案内を郵送する事で積極的に情報提供に取り組んでいる。	郵送料金の改定等があり、発送方法や発送数について次年度再考の必要有。同一地域内に新しく通信制の学校が開校した事もあり、郵送以外での情報提供の幅を広げていきたい。
	・学生募集活動は、適正に行われているか	昨年度の対策として挙げられていたホームページ、Instagram、YouTubeなどのネットツールの活用は、昨年度と比較して活用されていたと評価する。来校者の人数は横ばいであったため、来年度も引き続き努力を要する。	学校のカリキュラムや、学校生活についての説明は充実したが、学納金の内容についてまだわかりにくい部分があると思われるため、より親切なパンフレットや案内作りを進めて行く。
	・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報や教育成果は正確に伝えられているか	一新したパンフレットの中に新たに記載内容を増やし、募集活動の際に使う学校説明スライド資料に最新の情報を逐一追加する事で、教育成果の伝達に努めた。	今後も最新の情報への更新を怠らず学校説明のスライド以外でも、学校説明会等に参加出来なかった人に向けてホームページやSNS等でも情報の掲載をしていく。
	・学納金は妥当なものとなっているか	学納金は適切な運用を行っているが、昨年度と同じく一部保護者や学生から妥当でないという意見があったことは、まだ設備・備品等が充足していない部分があるためだと考える。	妥当ではないと思っている層に向けて、学納金への解釈のズレがある可能性も加味し、どの部分において妥当ではないかの判断をしたのか掘り下げ、適宜説明を行い、理解を得られるよう努めたい。
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	校舎建て替えによる負債はあるものの、現状維持を続けられる事業計画で進めている。	少子化による現役世代の入学者数の減少が懸念される為、早い段階での学生募集等に力を入れていきたい。
	・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	妥当ではあったが、予算計画について、予定外の突発的な広告費用等が発生することがあった。	収支計画外でありマイナスにはならなかったものの、突発的なものを考慮した上での予算が必要である。
	・財務について会計監査が適正に行われているか	外部会計士からの知見も受け、会計監査を適正に行った。	次年度も継続して適正に行っていく。
	・財務情報公開の体制整備はできているか	保護者会総会にて財務情報を書面にてまとめ、公開している。	次年度も継続して適正に行っていく。
(9) 法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令等職員間で適宜確認し、適正な運営に努めている。	今後法改正等で法令等が変わった場合を想定し、迅速に情報を共有認識できる体制を整えておく。
	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報等は分散させず、一か所にまとめる事で特定職員のみが閲覧出来るように管理し情報保護の対策としている。	継続して管理の徹底をしていくと共に、セキュリティの強化をしていく。
	・自己評価の実施と問題点の改	自己評価などの実施を積極的に行う事で、改善点の明確化	自己評価の結果に基づいて改善を行い、常に最新の情報を公

	善を行い、自己評価結果を公開しているか	に努めた。	開していくように努める。
(10) 社会貢献・地域貢献	・学友会のボランティア活動を奨励、支援しているか	同一県内のいわき市での水害の支援として、学友会を中心に水害処理用のタオルやブランケット等の寄付を学内へ募り、140 サイズ段ボール2箱分を支援物資として被災地へと送った。	次年度は災害のみならず地域の美化活動などの日常的な活動からボランティア活動に取り組めるよう、学友会と協同して奨励していく。
	・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)を積極的に実施しているか	周辺地域の小学校、中学校の家庭科教員に対し、研修を開催し、専門教職員がミシンの使い方などの縫製の基礎技術を指導した。	教員向けだけでなく、一般の方向けに公開講座なども企画し行っていきたい。
(11) 国際交流	・留学生の受入れ・派遣に積極的に取り組んでいるか	留学生の募集活動に努めているが、今年度もまた受入れがなされていない状況である。	留学生から求められる環境を理解し、広範的な募集活動に努めることで、留学生の招致を試みる